

院内感染対策ネットワークの 重要性

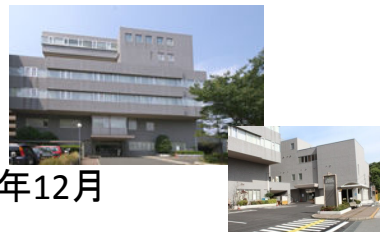
(病院間連携することのメリット)

中野・杉並感染管理ネットワーク代表幹事
荻窪病院 心臓血管外科 ICD 藤井 奨



施設紹介

- 所在地：東京都 杉並区
- 開設：1946(昭和21)年1月
- 医療法人設立：1950(昭和25)年12月
- 診療科目：16科目
- 病床数：許可病床 一般252床
- 患者数：外来580名/日 入院178名/日(平成26年3月)
- 職員数：計674名(平成26年3月)
- 中野・杉並感染管理ネットワークの事務局がある



本日の内容

- 中野・杉並感染管理ネットワーク立ち上げの経緯
- 中野・杉並感染管理ネットワークの活動指針
 - 感染対策情報の共有化
 - 感染対策の協力・連携
 - 感染対策の支援
- 実際の活動とメリット

2010年10月ICD緊急セミナー

2010年9月

大学病院アシネトバクターバウマウニの
アウトブレイク



2010年10月 ICD協議会の提言
「アウトブレイクは、警察や行政の介入の前に、
病院連携による対応をすべき」

病院間連携からネットワーク構築へ

杉並区に大学病院や公立病院はない



2011年、東京警察病院(中野区)、河北総合病院(杉並区)、東京衛生病院(杉並区)と院内感染対策で病院連携を確約



2012年4月1日 中野・杉並感染対策ネットワーク
中野区8施設、杉並区10施設が参加

参加施設

	幹事病院 加算1 病院施設	加算2又は 申請予定の 病院施設	保健所
中野区	1	8	1
杉並区	2	8	1

目的

- ① 東京都西部地区、特に中野区・杉並区における病院感染対策の向上
- ② 会員病院が病院感染対策に関して広く意見を交換し、医療関連感染症やアウトブレイクに対してネットワークで対応する



7

活動指針

地域ネットワークの構築に向けて
院内感染対策中央会議提言
【2011年2月8日】

地域ネットワークの構築の要点

1. 明確なミッションプラン(活動指針)
 - ①感染対策情報の共有化
 - ②感染対策の協力・連携
 - ③感染対策の支援
 - ④人材育成支援
2. 全施設員参加・成果物の共有化
3. 行政・メディア・地域住民とも連携

① 感染対策情報の共有化

- 勉強会 ※情報の周知
- カンファレンス ※病院感染対策の数値化を推奨
 - 自施設の感染対策の評価方法
 - 擦式アルコール製剤の払出量・AUD(抗菌薬使用密度)の算出方法の統一、アンチバイオグラム、耐性菌など
 - 実際の参加施設のデータを基にディスカッション
- 講演



9

② 感染対策の協力・連携

- ガイドライン・マニュアルの策定
 - 病院や施設の院内感染対策マニュアルやケアの手順について、作成・見直し時に協力する。
- 共同サーベイランスの実施
 - 会員病院が自施設のAUD(抗菌薬使用密度)を公開し、自施設の抗菌薬の使用の仕方を考える。
 - 耐性菌(MRSAやESBL【基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌】等)の検出状況等の情報を交換・共有する。
 - 共通の医療関連感染症に対するサーベイランスを実施し、感染対策の向上を目指す。

10

③感染対策の支援

- 感染症・感染対策相談窓口の開設
 - 事務局を荻窪病院内に設置し、相談を受け付ける
 - 感染症治療に関しては、東京医科大学感染対策室の支援を受けて対応する。
 - 感染対策については、ネットワーク病院に勤務するICNが対応していく。
- 施設を超えた院内感染対策ラウンドの実施・現場支援
 - 出張ラウンドやアウトブレイク支援

講演

第3回勉強会

「結核の現状と院内対策について」

国立病院機構 東京病院

永井 英明 先生

① 感染者がますます高齢化

1990年代、60歳代が一番多かったが、2001年には70歳代、2006年には80歳代に移行。

② 若者の結核も要注意

若い世代では集団感染の原因となることがある。

③ 働き盛りの人の発見が遅れる

働き盛りの世代の発見の遅れは、次世代に結核を残すことになる。

④ 外国人の割合が拡大している

結核対策が十分に行われていない、開発途上国から入国する若者が増えている。

⑤ 地域格差がある

大都市部に多く集中する傾向があり、国内の地域間格差が大きい。

⑥ HIV/AIDSとの合併の危険

HIV感染者やAIDS発症者に結核菌が感染すると、命とりになる恐れがある。

感染症や院内感染対策の重要性を再確認できる



感染症に対する対策を考える

講演

第11回勉強会

「薬剤耐性菌のアウトブレイクとその感染対策」

埼玉医科大学 感染症科・感染制御科 教授 前崎 繁文 先生

デング熱やエボラ出血熱の話題にも触れられ、渡航歴聴取の重要性



「3週間以内に海外渡航歴のある方は、職員にお声をかけてください」と案内を掲げることになった。

感染症や院内感染対策の最新情報を得る

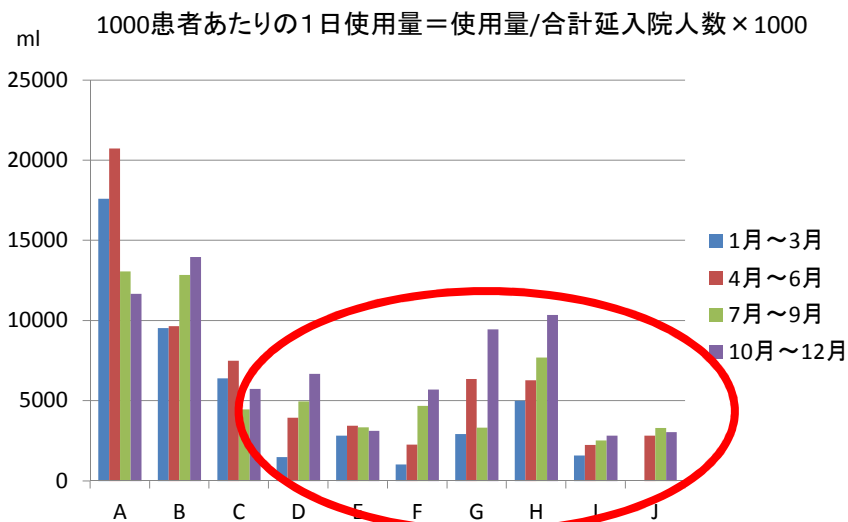


病院内での伝播を予防

数値化

- 報告書を作成することで自施設の現状がわかる
 - 3か月毎に報告
 - アルコール製剤の使用量もしくは払い出し量
 - AUD(抗菌薬使用密度)
 - 耐性菌の検出状況
 - 1年毎に報告
 - アンチバイオグラム(細菌の薬剤感受性)

アルコール製剤の使用量



報告書作成(数値化)

自施設の現状を把握できる
↓
数値化することで目標設定が可能
↓
感染対策の充実

ネットワーク分析データの共有

薬剤耐性を生じにくい抗菌薬使用を
考える



耐性菌発生の抑制

相談窓口



問い合わせ
「吸痰時のケアのポイントを教えてほしい」

現場にネットワーク在籍の感染
管理認定看護師(ICN)が赴き、こ
れまでの手順を確認し、改善点
を共に考える。

ケアの手順の見直し



感染の伝播を抑制

出張ラウンド



感染管理認定看護師による院内ラウンド
を受けることができる

物品の整理整頓

ラウンド後



物品の整理整頓、清掃しやすい環境づくりを促す



働きやすい、きれいな病院に変わる

汚物室の管理

ラウンド後



汚物室がきれいになり、臭わなくなる



患者さんにきれいな病院と認識される

包交車の見直し

ラウンド前



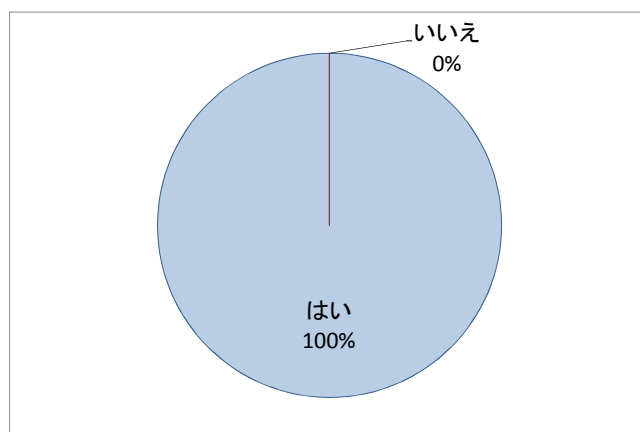
ラウンド後



床上30cm以内は不潔領域！
物を置かない！

出張ラウンドアンケート(3施設、N=20)

出張ラウンドで、自院の環境が改善されたと思いますか。



厚生労働省通達(平成26年12月19日)

3-1に定めるアウトブレイク及び3-3に定める介入基準に該当する緊急時に地域の医療機関同士が連携し、各医療機関に対して支援がなされるよう、医療機関相互のネットワークを構築し、日常的な相互の協力関係を築くこと。

アウトブレイクの支援
平成26年は2件のアウトブレイクを支援
↓
感染拡大を防ぎ、早期の終息に貢献

ネットワーク幹事病院のメリット

感染管理看護師 (ICN) の活躍の場が増える



ICNが成長する



より良い院内感染対策ネットワークに成長する



参加病院全体が良くなる

まとめ

院内感染対策ネットワークに参加する



自施設の現状を把握する方法がわかる



自施設の改善方法がわかる



自施設が良くなる



患者さんに信頼される病院になる